

非感染性ぶどう膜炎に対するアダリムマブ使用例の後方視的検討

伊沢英知,田中理恵,小前恵子,中原久恵,高本光子,藤野雄次郎,相原 一,蕪城俊克
あたらしい眼科. 2021 38(6):719-724.

アダリムマブ(以下 ADA)は完全ヒト型抗 TNF- α 抗体製剤であり 2016 年 9 月より既存治療で効果不十分な非感染性の中間部、後部または汎ぶどう膜炎に対して保険適用となった。本研究では既存治療に抵抗性の非感染性ぶどう膜炎に当院にて ADA を投与した 20 例を対象として、診療録より併用薬剤、ぶどう膜炎の再発頻度、有害事象を後ろ向きに検討した。ベーチェット病(以下 BD)7 例では、ADA 導入により再発頻度が 5.1 回/年から 1.6 回/年に減少した。シクロスポリン(CYS)は 3 例中 2 例で減量され、コルヒチンも 3 例全例で減量が可能であった。BD 以外のぶどう膜炎 13 例(サルコイドーシス 5 例、フォークト-小柳-原田病 3 例、relentless placoid chorioretinitis 2 例 多発性脈絡膜炎 1 例、乾癬性ぶどう膜炎 1 例、若年性特発性関節炎に伴うぶどう膜炎 1 例)では、再発頻度は 2.7 回/年から 0.8 回/年に減少した。プレドニゾロンは全例で使用されており全例で減量が可能であった。また CYS は 4 例全例で中止可能であった。 β -D グルカン上昇の有害事象を起こした 1 例で ADA を中止した。以上から ADA 導入により BD、他のぶどう膜炎共に再発頻度が減少し、併用薬剤の減量が可能であった。

あたらしい眼科 (2021 年 6 月号掲載)を転載のうえ一部改変